

でご参加頂いている日本大学経済学部の松倉力也教授、創価大学経済学部の寺田和之講師も参加した。アジア、アフリカ、南米、ヨーロッパの多様な国から参加者が来ており、参加者の属性については研究者から実務家に至るまで幅広い参加者がいた。NTAの関係者の多様性がよく分かる会議となった。

初日には Danucha Pichayanan 氏 (Secretary General of the Office of the National Economic and Social Development Council), Suriya Jungreangkit 氏 (Deputy Prime Minister and Minister of Transport) などから開会の挨拶があった。また、「Using NTA to Promote Social Welfare in Asia」というタイトルでパネルディスカッションが行われ、福田節也企画部室長がパネリストとして他国のパネリストと共にそのセッションで議論を行った。パネルディスカッションでは、各国の NTA の状況について各国の本音が垣間見れる白熱した議論となった。

四日間の間に様々な国から様々な角度で NTA 及び NTTA に関する発表が行われた。筆者は全てのセッションに参加することは出来なかったが、四日間の間で様々な NTA のセッションに参加することで NTA の現状と課題の一部を理解することとなった。今回の会議での関係者から感じたことは、NTA データの作成は一段落したので、次は政策利用に力点を置きたいという点であった。NTA 及び NTTA を政策利用につなげることが出来るか、この点が NTA 関係者の間では今後の重要なテーマになっていくと予想される。

最後に、鈴木貴士情報調査分析部研究員は今回が最初の英語での発表となったが、発表会場にいた参加者からかなりの好評を得るほどの見事な発表をしていたことを申し添えて今回の報告の結びとしたい。

(西村 仁憲 記)

日本人口学会関西地域部会2024年度研究会

2025年3月16日(日)、神戸大学人文学研究科(兵庫県神戸市)にて日本人口学会関西地域部会2024年度研究会が対面・オンライン併用で開催され、本研究所からは小池司朗人口構造研究部長、鈴木貴士社会保障基礎理論研究部研究員(当時)、中村真理子情報調査分析部研究員(当時)、筆者の4名が参加した。鈴木研究員は自由報告として「妻の親/夫の親との組み合わせ別同居関係の記述的分析—国立社会保障・人口問題研究所「全国家庭動向調査」を用いて」と題する研究報告を行い、小池司朗部長はシンポジウム「移動と結婚」における3報告に対し、コメンテーターとして討論を行った。

今回の部会では地理学や土木計画学といった他分野の研究者による報告もあり、GISを駆使した分析や発表スライドが目を引いた。学会後の懇親会でもお互いの研究分野に対する質問や議論が尽きず、大変有意義な機会となった。

(藤井多希子 記)

特別講演会「低死亡率国における平均寿命上昇の鈍化」

2025年3月17日(月)に、カリフォルニア大学ロサンゼルス校フィールドینگ公衆衛生大学院教授・同校人口研究センター所長のヒラム・ベルトラナーサンチェス(Hiram Beltrán-Sánchez)氏による特別講演会「低死亡率国における平均寿命上昇の鈍化(Deceleration in the rise in life expectancy in low-mortality countries: what lies ahead?)」が開催された。本講演会を企画した企画部・福田とベルトラナーサンチェス教授とは10年来の知り合いであり、福田が2014-15年にアメリカ、ウィスコンシン大学マディソン校に滞在した際にオフィスが隣同士だった頃からのご縁となる。